

南東濠洲地方の同期には *Cladophlebis*, *Thinnfeldia* は発見されざるも次の三疊紀となれば *Cladophlebis australis*, *Thinnfeldia Feistmantelii*, が *Phyllothecca robusta* や *Williamsonia* などと共に発見さる。

日本で生れた高山植物

小 泉 源 一

日本が洪積世の寒冷なりし時代に、其土地で生れた特有要素の多い事は誠に著しいことであるが、其等の内で當時西南日本の低地にあつたもので、漸次其寒冷の氣候に適應して寒地植物の仲間に入り、其後氣候暖和せし時に之等高山植物と行動を共にし、現在は東北日本の高山にあるが、又元來の子孫は矢張り西南日本の低地山地に生育し、決して高地には産しないものが若干ある。今其等を擧げて見ると、オホカメノキ、アカミノイヌツゲ、アカモノ、イハカミ、ハクサンハタザマ、イハナシ、オホバキスミレ、タニギキヤウ、ミヤマシグレ、カウリンクワ、等であるが、尙ハクサンフウロ、ミヤマズメソヒエ、イブキゼリ、オホバシヨリマ等は伊吹山より漸々降りて近畿の低山に産するのは奇である。

キヨスミヒメワラビの學名

小 泉 源 一

予は *Florae Symbolae Orientali-Asiaticae* (1930) p. 21 で、モクバ (コキンモフキノデ) の學名を *Dryopteris Maximowicziana* (MIQ.) KOIDZ. としたのは *Aspidium Maximowiczianum* MIQ. の type を見てした事で、尙念のため其 phototype と實物小片とを持歸つたことであつた、之と同時に *Aspidium subtripinnatum* MIQ. も亦モクバであることもたしかめた。

然るに是より先 1924 年 CHRISTENSEN 氏は *Aspidium Maximowiczianum* MIQ. をキヨスミヒメワラビと考へ *Dryopteris Maximowicziana* (MIQ.) C. CHR. としたのは無論 MIQUEL 氏の type を見ずにしたことで誤りである。

それでモクバの學名は予のものを採用する能はず、*Dryopteris subtripinnata* (MIQ.) O. KUNTZE を採用すべきであるが、キヨスミヒメワラビの學名は上の C. CHRISTENSEN のを採用し難く、やはり *Dryopteris Matsumurai* (MAKINO) C. CHR. である。

レヴェエー氏歐洲大戰中の仕事

小 泉 源 一

故 FAURIE氏日本採集植物を研究して非常な混亂を招致せし AUGUSTIN ABEL HECTOR LÉVEILLÉ 氏は 1889 年佛國に生れ 1918 年五十六歳にて死去せり、死後氏の Herbarium は英國 Edinburgh 大學に買求せられ、又歐洲大戰中の彼の仕事は皆出版されず手書として同じく全大學に保存さる、然れども *Carex*, *Epilobium*, *Aconitum* 等の type は皆佛國 Caen 大學の腊葉室に保存されつゝあり。今歐洲大戰中の手書なるものゝ目錄を擧ぐれば次の如し。

- 1, Flore du Kouy-tcheou, vol. I. (pp. 1-267), 1914 II (pp-268-532) 1915.
- 2, Liliographia ou les Lis du globe, 1917.
- 3, Rosetum Universum, ou les Roses du globe, 1917.
- 4, Les Jussières du globe, 1917.
- 5, Les Fuchsia du globe, 1917.
- 6, Onotheracées (petit genres), 1917.
- 7, Flore de Pekin et de Chang-hai et des provinces du Tche-li et du Kiang-sou, 1916. ed. 2, 1917.
- 8, Catalogue illustré et alphabétique des Plantes du Seu-tchouen, pp. 1-218. tt. 1-60. 1918. (10 Copies published)
- 9, China Revue nouvelle a' l' usage des grands Etablissements s' occupant du la Flore de Chine. Fasc. I. 1917.
(This contains, Quelques nouveautés Chinoises, - Les Variétés du *Salvia japonica*, - Quelques nouvelles formes de Fougères, - Les formes du *Carex breviculmis*, - Les Rosa chinois, - Additions aux Flores de Chang-hai, dukouytchou et du Yunnan, - Les formes notables de *Rosa multiflora*.)

台灣及び琉球のクズ

大井次三郎

台灣のクズが内地のものと異なる事を最初に指摘したのは台北帝國大學の荳科の専門家で現在南洋諸島の植物調査に活躍して居られる細川隆英氏であらう。氏は台灣産のものをクズの變種と認められ *Pueraria Thunbergiana* BENTH. var. *formosana* HOSOKAWA として居られる。和名はタイワンクズである。私も琉球諸島のクズが内地のそれと相違する點から注意を始め、島田彌市氏の御厚意によつて台灣産のものを頂戴して琉球のものと全く同一である事を確める事が出来た。私は内地の眞のクズとは別種であるとの見地から *Pueraria tonkinensis* GAGN. の學名を用ひたい。此の學名の植物は記載の上で苞の形ちに多少の違ひがあるが恐らく極若い内に脱落してしまふ苞を見落したのであらうと想像する。此種と同時に島田彌市氏は基隆で内地のクズに非常によく似た一品を採集せられて私に恵まれた。此れは内地のクズの南の型でクズと